

E S C

エスコート

January
2026

rt

第7号

CONTENTS



きらりNICEな企業
マルヤス機械株式会社



TOPIC 2 NEW
長野県新技術・新工法展示会in刈谷

特集
テクノリーチナガノ



TOPIC 1
ハワイの2店舗で販路開拓



TOPIC 3
提案営業セミナーを開催



TOPIC 4
AI活用セミナー「製造業のDX」を開催



TOPIC 5
自動化・ロボット活用を学ぶ見学会を開催



TOPIC 7
株式会社カクイチ工場見学を開催



TOPIC 6
「インド自動車市場のビジネスチャンスを探る」セミナーを開催



News

TOPIC 8
Go-Tech事業説明会を開催

コラム

GX活動の支援
シリーズ 3

- ・イベント・セミナーピックアップ
- ・事業紹介

NICEの支援で磨きをかけた「運ぶ力」でSDGsに貢献

マルヤス機械株式会社

業種：搬送省力機械、自動化機器の製造・販売

設立：1938年（昭和13年）3月10日

資本金：1億円

所在地：岡谷市成田町二丁目11番6号

代表取締役社長：林 広一郎氏

従業員：461名

<https://www.maruyasukikai.co.jp/>



林社長から取組みについてお話を伺いました。

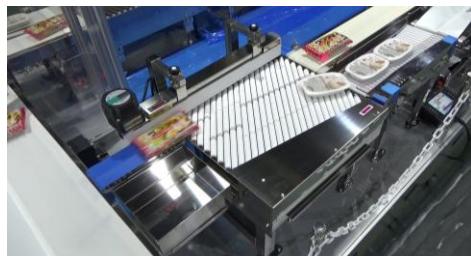
多様な産業の現場ニーズに応えるコンベヤ

マルヤス機械株式会社（林 広一郎代表取締役社長／岡谷市成田町）は、搬送省力機械、自動化機器の製造・販売を行っている。

製造や物流の現場では、製品や部品、資材の積込み、運搬、仕分け、保管といった作業を効率化するための機械や設備が活躍している。代表的なものにコンベヤ、フォークリフト、無人輸送車（AGV）、自動倉庫などがあり、総称してマテハン（マテリアル・ハンドリング）機器と呼ばれている。

これらのうち同社が主力とする搬送省力機械は、コンベヤやコンベヤを核とした搬送システム製品だ。取引のある業界は、食品、自動車、半導体、医薬品など多岐にわたる。もちろん、顧客がつくるものやその製造環境が異なれば、コンベヤに求められるニーズも変わる。精密機器や医薬品を扱う際のクリーン度、食品製造のHACCPに対応した衛生管理、耐低温、防爆などもまたしかり。物流・搬送に関わるあらゆるニーズに応えるべく、同社は多彩なラインナップを用意して顧客にソリューション提案を続けてきた。さらに、同社の機動部隊であるシステム部を中心として、既存のカタログの枠を超えた新たなニーズの掘り起こしにも余念がない。幅広い業界で通用する「運ぶ力」は搬送のプロとしての誇りである。

あらゆる現場で人手不足が言われている時代に、設備と設備をつないでものを運び、自動化、省力化を実現する同社は、ものづくりや物流を支えるまさに「縁の下の力持ち」である。



合流コンベヤユニット
「サイドアライメントベヤ」

マグネット駆動式ローラコンベヤ「レスベヤ」

同社の開発力・技術力を象徴する製品に「レスベヤシリーズ」がある。

従来のローラーコンベヤは、平ベルトや丸ベルトで駆動していた。しかし、ベルトを使ったコンベヤは、ベルトとローラの摩擦によって搬送ローラを回転させるためチリやホコリが発生する。しかも、摩耗でベルトが切れてしまえば設備は使えない。そこで、自転車のダイナモライトをヒントに、磁力の吸引と反発の原理で搬送ローラを回転させる仕組みをつくりあげた。それが「レスベヤ」だ。

レスベヤは非接触駆動なので駆動伝達部からの塵の発生が極めて少なく、クリーンな環境での使用が可能である。また、効率的でロスのない

駆動方式ゆえモータ容量が小さく、つまり消費電力を大幅削減できる。消費電力が小さければCO₂削減効果も高い。他にも騒音値が小さい、メンテナンスフリー、巻き込まれ事故のリスクがなく作業者フレンドリー等のメリットがある。



非接触駆動ローラコンベヤ
「レスベヤシリーズ」GM18H

しかも、着磁をスパイラル状に施した同社のレスベヤは、その後を追うように他社が手がけたマグネット駆動式ローラコンベヤに比べて動きが格段に滑らかだった。

当初は食品向けの需要を想定して、1994年（平成6年）に発売したレスベヤは、食品工業展示会で液晶テレビのガラス基板メーカーの目に留まり、その製造ラインにおいて圧倒的優位性をもって採用された。2003年（平成15年）11月には（公社）発明協会主催の関東地方発明表彰でレスベヤは発明奨励賞を受賞した。

きらりNICEな企業

当機構では、技術革新から経営支援まで様々な支援策を展開しています。このシリーズでは、その支援策を活用された企業様を取材し、お話ししたいた内容を特集記事としてご紹介します。

NICEの補助金事業や展示会参加で得たもの

2021年（令和3年）、同社はNICEを通じてゼロカーボン技術事業化支援補助金を得た。この補助金事業は、2050年度におけるCO2排出量実質ゼロの実現に向け、「長野県脱炭素社会づくり条例」に基づいて持続可能な脱炭素社会づくりを推進するため、県内ものづくり企業が新たなゼロカーボン関連技術開発に取り組む場合にその経費の一部を補助するもので、産業イノベーションの創出を通じて、環境共生型の経済成長と地域振興を図ることを目的としている。

補助金を活用して同社はレスベヤの応用技術に磨きをかけ、分岐、合流、整列といった機能も磁石を使ってできるようにした。たとえば、N1シリーズSLS-Hは、スラットに載った搬送物を2方向～5方向へ高速に振り分けることができ、しかも機長が短く、メンテナンス性も高い。シンプルな見た目にも関わらず高い機能を備え、搬送物を安定かつ確実に搬送する動きは、同社の技術の真骨頂である。

一方、タイに資本業務提携先企業のMAE SYSTEMS ENGINEERING (Thai) Co., Ltd.をもつ同社は、NICEの案内でタイ展示会METALEX2023、同2024に出展、2025年3月にはNICE主催の「トヨタ紡織アジア向け国際版技術提案商談会inタイ」に参加した。その後、受注、見積依頼等の成果にも結びついている。

タイにおいてはこれまで、日本国内で同社のとる付加価値戦略は、他の東南アジア諸国同様に通じ難かったが、昨今、日系企業の進出が増えたことで、ものづくりにおける搬送設備の地位も向上する兆しが見えていた。折しも両展示会に参加した同社には、すでに大口の引合いが複数あったという。



METALEX2023長野県ブース展示会場風景

レスベヤを拡充しSDGsへの貢献を前面に

同社は近年、ベトナムのダナン工科大学卒業生を正社員として採用した。設計キャパシティの維持やさらなる向上が狙いだが、彼らのなかで将来ベトナムに戻って働きたい

者がいれば現地に設計事務所を開き、webで国内とつないで連携することも視野に入れている。タイで販路が開かれようとしていることと合わせ、マルヤスブランドが世界へ浸透していく契機になるかもしれない。

海外への目配りとともに、今後力を入れている取組みについて林社長は、非接触のマグネット駆動方式を他の既存製品にも拡充することを挙げた。レスベヤシリーズは当初、クリーン度が求められる工場での採用に期待することが大きかったが、これからのプロモーションではSDGsへの貢献を前面に出していくと言う。

「ターゲットとする市場で当社がアピールできる付加価値はグリーン、クリーンです。」特に消費電力の大幅削減、CO2排出量の削減、運転音減少による現場の環境改善は大きな売りだ。課題はSDGsに関心の高い顧客とどう結びつかかである。

「長野県産業振興機構では、課題解決型ビジネスマッチングプラットフォーム『テクノリーチナガノ』やゼロカーボン戦略を実現するための『サーキュラーエコノミー（循環経済）イノベーションフォーラム』といった機会を設けられていると伺いました。そうした場での新たな出会いに期待しています。」

同社の搬送システムは、時代の変化を先取りしながら、顧客の課題解決と生産現場の進化を支えてきた。同社が追求する「運ぶ」のあり方は、ものづくりの現場がこれから目指す姿を示している。



屋上に太陽光発電設備を備えた社屋(2021年竣工)

活用した支援制度等

●ゼロカーボン技術事業化支援補助金（令和3年）

◆お問い合わせ

グリーンイノベーション推進部

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838

E-mail : green-innv [at] nice-o.or.jp

●展示会・商談会支援

◆お問い合わせ

マーケティング支援部

TEL : 026-269-7366 FAX : 026-228-2867

E-mail : kokusai[at]nice-o.or.jp

新規顧客開拓に困っている工業系製造事業者は 「テクノリーチナガノ」のご活用を！

テクノリーチナガノ（課題解決型ビジネスマッチングプラットフォーム）は、2021年9月、コロナ禍で展示会や商談会が中止となる中、「オンラインでも新しい取引先と出会いたい」という声から誕生しました。

それまで発注企業は商社や展示会を通じて外注先を探す方法が一般的でしたが、近年はWEBを活用した企業探索が主流に。テクノリーチナガノは、そんな変化に対応し企業同士がスムーズに出会える仕組みを提供しています。

登録事業者が増加中！7つのメリット

- ① 当機構主催の展示会・商談会などの参加費が割安
- ② 自社製品を動画コンテンツなどを活用して簡単にPR
- ③ 発注企業から直接問い合わせが可能
- ④ 年3回の商談会に参加でき、逆指名も受けられる
- ⑤ 大手企業にPRできるプライベート展示会への参加
- ⑥ 自社ページのアクセス情報を入手可能
- ⑦ 生成AI活用など販路開拓セミナーに参加可能

登録事業者（年会費5,000円）は初年度の約3倍に増加

商談会や展示会を通じた発注企業からのアクセスも年々伸び、認知度が着実に高まっています。

年3回の商談会で新たな出会いを

2024年度からはテクノリーチナガノ商談会を年3回に拡充。毎回20～30社の発注企業が参加し、対面・オンラインどちらの形式でも商談が可能です。さらに、発注企業から「この会社と面談したい」と逆指名されるケースも増えており、新たな顧客獲得の場として注目を集めています。

生成AI活用セミナーでスキルアップ

今年度からは「テクノリーチナガノセミナー」を開催

生成AIを使った販路開拓や展示会準備、来場者対応などをテーマにした実践的な内容が好評でした。AIを初めて使う企業にも分かりやすく、スキルアップのきっかけとなっています。

これからも企業の成長を応援

テクノリーチナガノは、「発注企業との出会い」と「販路拡大のノウハウ」をワンストップで提供する支援プラットフォームです。

自社単独では困難である発注企業とのマッチングの機会をより多く提供し、併せて販路開拓方法・自社技術のアピール方法のスキルを向上させ、新規顧客獲得の成約率を高める有益なツールとして利用していただくよう様々な支援事業を企画していきます。

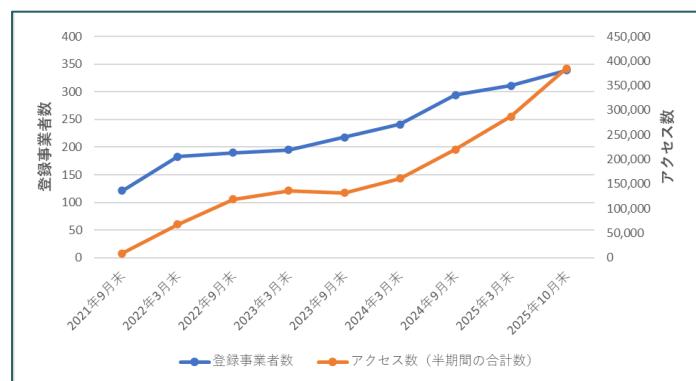
今後も、登録事業者が自社技術を効果的に発信し、新たな取引先と出会えるよう、さまざまな支援を続けていきます。

* 画像をクリックするとHPをご覧いただけます。

HPはこちらから→



登録事業者の登録申込みはこちらから→



テクノリーチナガノ登録事業者数/アクセス数の推移

是非

登録事業者

への登録をお願いします！

ご相談・
お問い合わせ



マーケティング支援部 担当：金井、中村

TEL : 026-227-5013 E-mail : treach[at]nice-o.or.jp

<https://t-reach.nice-o.or.jp/>

1 過去最多11社が渡航してのプロモーション販売！ ハワイの店舗で長野フェアを開催 マーケティング支援部

総合ディスカウントストア「[ドン・キホーテ](#)」を運営する^(株)パン・パシフィック・インターナショナルホールディングスの米国ハワイ州28店舗のうち、特に日本食品に特化した店舗の「[MARUKAI](#)」と「[Don Quijote ホノルル店](#)」の2店舗で県内食品製造事業者によるプロモーションを行いました。長野フェアの開催は8年目を迎え、日本食に高い関心を持つお客様が長野県事業者による実演販売を毎回心待ちにいらっしゃいます。本年度の事業では初参加3社を含む過去最多の11社が店頭プロモーションを実施しました（令和7年6月6日～8日）。参加者はそれぞれの経験を活かし、来店客に自社商品のこだわりと美味しさを一生懸命にアピールしました。

渡航した職員は店舗やバイヤーとの調整を図り長野フェアの運営や事業者の試食販売の準備・補助、誘客を行い、皆さんが販売に集中できるようサポートを行いました。

参加者からは「現地の方の日本食への関心の高さが伺えた」「美味しさを評価され完売することができた」「試食を勧めると必ず購入していただけた」「米国のお客様の購買力の高さを実感した」「来年もまた参加したい」等、喜びと驚きの声が聞かれました。長野フェアの売上は前年比102.7%と毎年着実に伸びています。長野フェア事業を米国への輸出開始の足掛かりとして活用してください。



「MARUKAI」でのプロモーション販売の様子

ハワイ店舗で開催した長野フェアの詳細はこちらから
<https://www.nice-o.or.jp/info/info-66872>



お問い合わせ 担当：山崎

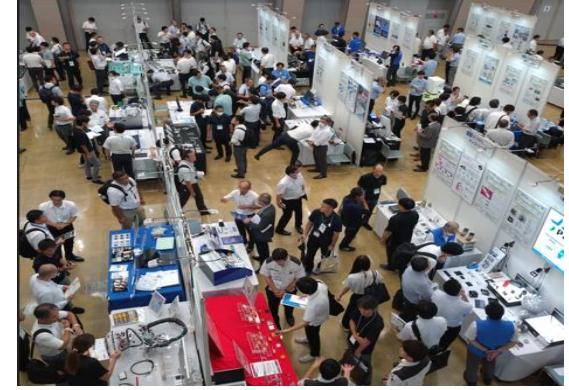
TEL : 026-235-7246 FAX : 026-235-7387 E-mail : hanro [at] nice-o.or.jp

2 次世代電動モビリティ分野へPR！「長野県新技術・新工法展示会in刈谷市産業振興センター」を開催 マーケティング支援部

(公社)自動車技術会中部支部との共催で、長野県新技術・新工法展示会（愛知県刈谷市、令和7年9月4日、県内企業82者出展）を開催しました。主に次世代モビリティ分野へのPRとして、高精度加工、熱マネジメント技術、絶縁、NVH対策等の技術提案を行いました。Tier1の生産部門、開発技術部門等を中心に、902名と大変多くの来場者にお越しいただきました。明確な技術課題を持った来場者が多いことが一つの特徴であり、商談・名刺交換等が活発に行われ、自動車業界のニーズの高さや、長野県企業の特徴的な技術に対する関心の高さが伺えました。今後は、ニーズの深掘り等により、商談成果に結びつくことが期待されます。

また、来場のきっかけづくりの一つとして、（一社）長野県観光機構及び長野県名古屋観光情報センターのご協力のもと併設した「信州おいしいものマルシェ」では、旬の果物や、信州銘菓等の販売を行い、多くの来場者にご購入いただきました。

引き続き、県内企業と自動車メーカー等の技術融合や協業に向けた企画を進めています。



展示会の様子

セミナーの詳細はこちらから
<https://www.nice-o.or.jp/info/nagano-kariya2025/>



お問い合わせ 担当：三井

TEL : 026-227-5013 FAX : 026-228-2867 E-mail : matching [at] nice-o.or.jp

3

セミナーと実務の連動により成果を上げる2ヶ月間！ 「提案営業・交渉力・プレゼン能力向上セミナー」を開催 マーケティング支援部

経験・感覚で捉えがちな営業活動の「見える化」と「考える力」を強化し、「顧客の解像度」を高めることは、各営業フェーズにおいて、非常に重要です。「顧客や市場は何を求めているのか」「自社は何を提供できるのか」を科学的に考え、営業戦略の実践ツールとして活用できるスキルを身につけることを目的とし、提案営業・交渉力・プレゼン能力向上セミナー（岡谷市、令和7年9月11日～11月13日までの6回シリーズ）を開催しました。

県内中小企業の経営者、営業責任者等44名が、毎回異なるテーマの講義・実習に取組みました。中小企業が今取組むべき差別化戦略、生成AI活用法、顧客の潜在課題の見つけ方、プレゼンスキル強化、組織としてのWEBマーケティング、自社の強みの見つけ方や商談力強化、新規開拓の方法、組織営業に向けた取組手法等について学びました。テレアポ実践研修では、営業したい相手先に実際に電話をかけ、アポイント獲得数30件（獲得率52%）という結果につながりました。

営業活動の指針となるような理論や、すぐに実務に使える実践スキルを学べるセミナーとして、毎年好評をいただいているます。



グループワークの様子

セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/teian2025/>



お問い合わせ 担当：三井

TEL : 026-227-5013 FAX : 026-228-2867 E-mail : matching [at] nice-o.or.jp

4

第154回DTF研究会は製造業のDXへの取組みをテーマに開催 諒訪センター

第154回DTF研究会（DTF : Desk Top Factory）（岡谷市、令和7年9月18日）が開催され、「製造業のDX」をテーマに、地域のIT専門家を招いたセミナーが行われました。

AI活用に関する講演では、塩尻・岡谷に拠点を置く武居ワークスの代表 武居 功祐氏が登壇しました。「生成AIの現状と課題～最新動向からみるAI活用～」と題し、国内外の事例を交えながら、生成AIの活用状況や課題、リスク、そして今後のAIエージェントの重要性について、分かりやすく解説しました。

続いて、当機構ITバーイ推進部の高島マネージャーが「経営を『変える』のはITじゃない、現場と仕組みだった～製造業のDXの取り組み事例から考える～」と題し講演を行いました。中小企業が自社に最適なDXを進めるため「ローカライズ」の視点を紹介し、成功事例と失敗事例を交えながら、取組みのポイントを具体的に解説しました。

参加者からは、「自社のDXを考えるきっかけになった」「AIを経営にどう活かすかが理解できた」「現場に合ったDXの進め方を学べた」と好評であり、製造業におけるDX推進への期待がさらに高まりました。



長野県工業技術総合センターで開催

DTF研究会の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-2813/>



お問い合わせ 担当：垣内

TEL : 0266-53-6000 FAX : 0266-57-0281 E-mail : nice-suwa [at] nice-o.or.jp

5 先進企業から自動化・ロボット活用を学ぶ見学会を開催

伊那センター

伊那センターでは製造力強化活動支援事業の一環として、毎年、生産性向上に積極的に取組む企業の見学会を開催しています。令和7年度は、10月7日にSMC(株)草加第1工場を21名で訪問しました。

近年、人口減少に伴い、企業にとって労働力の確保が喫緊の課題となっており、その解決策として自動化やロボットの導入・活用に取組む企業が増えています。しかしながら、機械装置の機種選定や導入コスト、工程変更への対応、人材育成など、導入にあたってのハードルを高く感じる企業も少なくありません。

SMC(株)では、自社製品を活用した自動化ラインや協働ロボットの導入により積極的な効率化・省人化を進めており、今回の見学会では、実際の工程を見学するとともに、自動化の考え方や導入の進め方について、具体的な事例を交えた説明を伺いました。参加者からは、「自社でロボットを活用するイメージが持てるようになった」「まずは出来るところから小さく始めて、徐々に発展させていくことが大切だと感じた」などの声が寄せられ、現場を見て得られる気づきの多さがうかがえました。

当センターでは今後も、自動化やロボットの導入・活用を進める先進企業への見学会を企画し、地域企業の生産性向上を支援していきます。



説明会の様子

見学会の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-ina23/>

お問い合わせ 担当：新村

TEL : 0265-76-5668 FAX : 0265-73-9023 E-mail : nice-ina [at] nice-o.or.jp

6 インド自動車市場のビジネスチャンスを探る！ グローバルセミナーを開催

マーケティング支援部

人口世界一、GDP世界4位と経済成長を続け、今後も自動車市場の成長が見込まれるインドに対して企業の関心が高まる中で、インドにおける自動車関連のビジネスチャンスを探るセミナー（岡谷市、令和7年10月16日）を開催しました。第一部では、経営コンサルティング会社のアーサー・ディ・リトルから、自動車部品製造業のビジネスチャンスを探るために、日系自動車メーカーのインド市場戦略、サプライチェーンの現状等、第二部ではインドに進出している㈱協和精工（高森町）代表取締役社長 橋場氏からインド進出までの流れ、インド進出時の留意点等インド進出事例を紹介いただきました。

インド進出を検討中の企業を含め、海外展開に関心のある38名が参加し、終了後のアンケートでは、参加者全員から「役立つセミナーであった」と大変好評でした。また、インド進出の検討をさらに推し進めたい・これから検討したい企業がともにセミナー前の調査より増えており、セミナーを契機に企業のインド進出に対する関心がさらに高まったことがわかります。

令和8年2月 (ACMA:Automechanika New Delhi 2026、令和8年2月5日～7日)には、インド市場への販路開拓支援のため、自動車部品関連のインド展示会に長野県パビリオンを設置し、企業4社の出展を支援します。



セミナーの様子

セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-66032/>

お問い合わせ 担当：金井、近藤

TEL : 026-227-5013 FAX : 026-228-2867 E-mail : kokusai [at] nice-o.or.jp

7 「現場で学ぶ生産性向上とDX」 株式会社カクイチ工場見学を実施

ITバレー推進部

デジタル人材を育成する「現場課題解決力養成講座」の一環として、令和7年11月13日に受講生とともに(株)カクイチ東御工場を訪問しました。同社では、必要な情報を「見える化」し、現場で働く人と共有することで誰もが同じ基準・同じ理解で仕事に取組める環境を整える仕組みづくりが徹底されています。

工場内では、生産状況や作業手順、改善記録などを即座に確認できるよう、情報共有の工夫が随所に施されており、個人に依存しない運用が実現されています。こうした取組みが、他部署や他拠点へスムーズに横展開されることで、組織全体の生産性向上へつながっていることを学びました。

受講生からは「情報の扱い方ひとつで改善の質が変わる」「自社に応用できるヒントが多い」との声が寄せられました。

本講座は、現場の課題をデジタルで解決する力を身につけることを目的としており、今回の見学はその重要性を実感する貴重な機会となりました。



工場見学の様子

講座の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-66947/>



お問い合わせ 担当：高橋、角田、西村

TEL : 026-217-1635 FAX : 026-226-8838 E-mail : it-valley [at] nice-o.or.jp

8 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）の申請に向けた説明会を開催

次世代産業部

中小企業・小規模事業者が行う、大学・公設試等の研究機関と連携しての製品化につながる可能性の高い研究開発を支援するため、成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）の説明会（令和7年11月27日、オンライン形式）を開催しました。

説明会では、初めに経済産業省関東経済産業局に事業概要の説明をいただき、(独)中小企業基盤整備機構からは過去の事例からみたテーマ選定の方法といったGo-Tech事業の申請に向けたアドバイスを交えた講演をしていただきました。

また、今までにGo-Tech事業に採択された企業（3社）からも事例紹介を行っていただき、具体的にどういった技術であれば申請が可能になるのか等を学ぶ機会になりました。

これから本事業の申請を検討している企業を含め、計27名の方に参加していただきました。チャレンジしたい企業の方は、まずはお気軽に当機構へお問い合わせください。

説明会の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-67807/>



オンライン説明会資料

お問い合わせ 担当：村田（修）、水内

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838 E-mail : shinsangyo [at] nice-o.or.jp

GX活動の支援

シリーズ3

前回はGXの活動の中で企業にとって最も重要な経済を回すこと、すなわち資源循環型の経済システムであるサーキュラーエコノミー（以下、CE）の社会実装を目的とした、「CEイノベーション研究会」を紹介しました。今回は、新たに立ち上げた「環境コミュニケーション実践研究会」についてご紹介します。「CEイノベーション研究会」が、資源循環を可能にする技術開発を中心に議論するのに対し、「環境コミュニケーション実践研究会」では、CO₂排出量の可視化を可能にするライフサイクルアセスメント（以下、LCA）を活用した情報戦略について検討します。当センターでは、前者を「ハードの視点」、後者を「ソフトの視点」と捉えて、それぞれの視点による取組みのシナジー効果により持続可能な企業経営を支援しています。

□環境課題と新規事業

図1は、SDGsの17の目標を「生物圏」「社会圏」「経済圏」軸に区分して3層構造で示した「SDGsウエディングケーキモデル」です。下層2段はドーナツ型で、「自然環境がなければ社会は成り立たず、社会がなければ経済は発展しない」というように開発目標を課題と捉え、その関係性を立体構造として示しています。

自然の基盤を維持しながら気候変動対策を行うことから始め、社会の貧困や飢餓をなくし、平和で健康な暮らしを実現する。その上で、資源循環を伴う経済発展を実現し、自然を再興することにもつなげていくことが理想です。その実現には、目標17に掲げられたパートナーシップが不可欠です。図1はこの考え方を分かりやすく表しており、これらの実現のためには「コミュニケーション」が重要であることを示しています。

こうした背景から、企業と多様なステークホルダー（マーケットを含む）とのパートナーシップ構築を支援するため、「環境コミュニケーション実践研究会」を立ち上げました。環境コミュニケーションとは、企業が個人や行政、学校などとパートナーシップを確立し、環境に関する情報共有や対話を通じて、環境問題の解決や未然防止に取組むことを指します。

一方で、自社だけでの環境コミュニケーションを実践することが困難な企業も少なくないことから、当センターが積極的に支援を行うものです。

□事業概要

研究会では、毎回テーマを設定し、第1回は「カーボン排出量の可視化・削減」、第2回は「Scope3の算定」をテーマとして取り上げました。

専門家による講演、企業の事例発表、参加者全員による討論を通じて、得た知識やヒントを自社に持ち帰り、活動の参考としていただいている。

現在、前回のコラム「GX活動の支援／シリーズ2」の（1）でも取り上げた、再生材やバイオマス活用に関わる再生プラスチックの利用が社会問題となっています。今後開催予定の第3回研究会（令和8年1月28日）では、このプラスチックの再生利用における資源循環をテーマに議論を深める予定です。

次回のコラム「GX活動の支援／シリーズ4」では、資源循環と環境評価を組み合わせた取組みの重要性について紹介します。

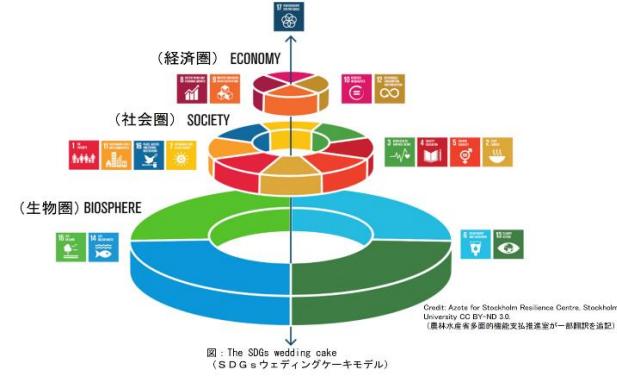
Go Zero Carbon By 2050

県内製造業による関連技術の開発や製品のライフサイクルによるカーボン排出量の可視化・削減等を支援します

グリーンイノベーションセンター

テクノコーディネーター
常田 聰

企業の脱炭素化やグリーンイノベーションの創出に向けた活動を支援します。



環境コミュニケーション実践研究会の様子

グリーンイノベーション推進部（グリーンイノベーションセンター）

お問合せ先

TEL.026-217-1634 E-mail : green-innv [at] nice-o.or.jp

◆研究会の情報はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-31688/>



イベント・セミナーピックアップ

■「航空機産業人材育成セミナー」 参加者募集

「民間航空機産業の動向」等に関して、名古屋品証研(株)などからご講演いただきます。

- ・期日 令和8年1月23日（金）
- ・会場 テクノプラザおかや（岡谷市）
- ・定員 30名程度
- ・締切 令和8年1月20日（火）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68323/>

■「第3回環境コミュニケーション実践 研究会」参加者募集

プラスチックの再生利用による資源と価値の循環社会に挑むをテーマに、県内企業等の事例発表と参加者によるディスカッションを実施します。

- ・期日 令和8年1月28日（水）
- ・会場 県工業技術総合センター材料技術部門（長野市）
- ・定員 30名程度
- ・締切 令和8年1月中旬頃
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68556>

■「第3回サーキュラエコノミーイノベ ーション研究会」参加者募集

東京大学と三菱電機(株)が開催する社会連携講座で議論している内容について、東京大学大学院工学系研究科の木見田康治特任准教授からご講演いただきます。

- ・期日 令和8年2月10日（火）
- ・会場 上田東急REIホテル（上田市）
- ・定員 50名程度
- ・締切 令和8年2月5日（木）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68916/>

■「第3回テクノリーチナガノ商談会」 参加者募集

テクノリーチナガノを活用した全国の発注企業とのビジネスマッチング商談会です。

- ・期日 令和8年2月24日（火）～3月6日（金）
- ・開催方法 対面個別商談又は、オンライン商談
- ・定員 25社程度
- ・締切 令和8年1月21日（水）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68458/>

■「研究開発等支援制度説明会」参加者 募集

国・県等の研究開発に係る支援制度等について、各支援機関からご説明いただきます。

- ・期日 令和8年2月下旬頃
- ・会場 長野市内を予定
- ・定員 50名程度
- ・締切 令和8年2月中旬頃予定
- ・詳細 1月下旬にHPにて募集開始予定

■「グリーン水素イノベーション研究 会」参加者募集

信州産業水素推進ネットワーク及びNICE長野コラボネットとの共同開催とし、日本軽金属(株)からご講演いただきます。

- ・期日 令和8年1月23日（金）
- ・会場 ホテル信濃路（長野市）
- ・定員 会場60名、オンライン制限なし
- ・締切 令和8年1月20日（火）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68187/>

■「第3回次世代モビリティ関連技術 講座」参加者募集

(株)日経BP、(一社)日本自動車部品工業会から最新EVにおける技術的な動向や自動車産業の競争力強化の取組みについてご講演いただきます。

- ・期日 令和8年1月30日（金）
- ・会場 住友不動産御成門駅前ビル(東京都) +オンライン
- ・定員 会場40名、オンライン制限なし
- ・締切 令和8年1月23日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-68004/>

■「長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金 オンライン事例報告会」参加者募集

実際に支援金の採択を受けた方々から、事業内容や制度活用のポイント等を発表していただきます。

- ・期日 令和8年2月19日（木）
- ・開催方法 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・対象 ソーシャル・ビジネスに興味がある方
- ・締切 当日まで受付可
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始予定

■「磁気エレクトロニクス研究会」「次世パワ ーエレクトロニクス研究会」参加者募集

異方性軟磁性材料の開発等について、信州大学の佐藤敏郎教授、水野勉教授などからご講演いただきます。

- ・期日 令和8年2月24日（火）
- ・会場 シャトレーゼホテル長野（長野市）
- ・定員 40名程度
- ・締切 令和8年2月中旬頃予定
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始予定

■「NICE補助金（IT、医療、航空機、グ リーン分野）の成果報告会」参加者募集

実際に補助金の採択を受けた方々の事業内容や制度活用のポイント等を発表していただきます。

- ・期日 令和8年3月12日（木）
- ・開催方法 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・定員 100名程度
- ・締切 令和8年3月上旬頃予定
- ・詳細 1月下旬～2月上旬にHPにて募集開始予定

最新のイベント・セミナー情報はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/>

中小企業の 経営者を 「一人にしない」

無料経営相談所

多様な分野の専門家が相談に対応します！



「長野県よろず支援拠点」は、国が設置した
無料の経営相談所です！

具体的な相談事例

売り上げを
伸ばしたい

業務効率化
IT活用をしたい

新しい商品を
開発したい

適切な価格に
見直したい

商品の魅力・強みを一緒に考えながら、売上アップにつながる具体的な提案を行います。

デジタルによる経営強化に関するさまざまご相談に対応いたします。

実績豊富なコーディネーターが経営者の課題を解決するお手伝いをします。

価格転嫁サポートチームが、中小受託事業者の価格交渉・価格転嫁を後押しします。

ミニセミナー、
各サテライト
での相談会

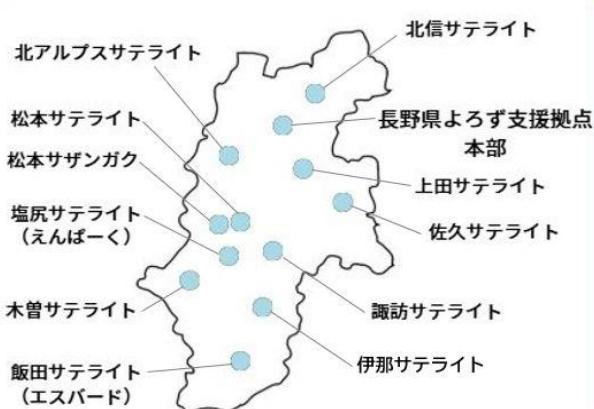
- ・相談件数（R6年度） 延べ9,231件
- ・オンラインミニセミナー相談会（R6年度）
開催件数 延べ139回
参加人数 延べ648人



ミニセミナーなどのお知らせは
こちらからご確認ください。

サテライト拠点

各サテライトで相談会を実施しています。
お近くの拠点へお越しください。
オンラインも実施しています。



相談者の声

- 「当店で実践する具体的な経営課題の解決方法を示してもらえたことが成果につながった。」
- 「アドバイスのお陰で、新たな販路開拓や商品開発のヒントが得られた。」
- 「オンライン面談のお陰で、効率よく相談ができ、モヤモヤが解決された。」

専門家が経営のお困りごとの解決に向け、
真摯に寄り添います！
「相談してよかったです！」



長野県よろず支援拠点

<https://nagano-yorozu.go.jp/>

TEL : 026-227-5875 / FAX : 026-227-6086

E-mail : info[at]nagano-yorozu.go.jp

